

せつこっこクラブ 11月

「おやこバスツアー 文学とガラスの世界を楽しもう！」

日 時：令和元年11月9日（土）午前9時～午後4時

行き先：新美南吉記念館（半田市）、三河工芸ガラス美術館（西尾市）

展覧会：企画展「ストップモーションアニメーション ごんの世界」、各館常設展

対 象：小中学生、保護者

参加人数：29名（小学生15名、保護者14名）

参加費：小学生2,450円、保護者920円（入館料、万華鏡づくり体験料）

職 員：大村、長岡

今月のせつこっこクラブでは、新美南吉記念館と三河工芸ガラス美術館を訪れ、最後にオリジナル万華鏡づくりに挑戦する「おやこバスツアー」を開催しました。

まず、ひとつめの美術館は、『ごんぎつね』、『手袋を買いに』で有名な文豪・新美南吉を紹介する新美南吉記念館です。最初に、みんなで記念館の学芸員の方による解説を聞きました。記念館は半地下の個性的な建物になっており、周りには『ごんぎつね』の舞台にもなった小山があります。

「ここに来たことがある人ー？」と聞くと元気に手が挙がり、小学4年生の国語の教科書で『ごんぎつね』を習うからか、新美南吉についてとても詳しく知っている子たちがいました。



解説を聞いた後は、自由見学の時間です。館内には、新美南吉について知ることのできる常設展のほか、ビデオコーナー、ミュージアムショップ、自由参加型のワークショップコーナーがありました。旅の記念に、ごんぎつねカンバッチを作るご家族も。また、朝の受付時に配布したしおりでは、館内に隠れている7匹の「ごんぎつね」をみつけよう！というクイズを出題していました。受付の職員さんや解説ボランティアさんにヒントをもらったりして、探検しました。



昼食は、持ってきたお弁当を新美南吉記念館前の芝生広場で食べました。すこし風は冷たい日でしたが、晴天だったこともあり、食べ終わった家族からまわりの小山の散策に出かけていました。

次の目的地、三河工芸ガラス美術館は、ガラス作家の方が建てた個人美術館で、ギネスブックにも登録され、内部に入ることのできる巨大万華鏡「スフィア」や、彫刻鏡の部屋「四季」のある、体験型ミュージアムとなっています。

到着後は、家族で館内を自由見学しました。土曜日だったため行列のできていたスフィアに挑戦したり、彫刻鏡の部屋で写真を撮ったりと、思い思いに楽しんでくれていました。また、3階に展示されているいろいろな万華鏡を見て、「ワークショップでは、この色で作ろう！」と決めた子たちもいました。



自由見学の後、待ちに待った万華鏡づくり体験です！

まずは筒とのぞき穴部分に貼る紙を選びます。子どもたちは好きな色・模様の紙、マスキングテープをスイスイ選んでいきます。のりを使って貼っていき、筒からはみ出した紙のいらぬ部分は、講師の先生が切り方をわかりやすく教えてくれました。

終わった子から、万華鏡内部の鏡を組み立てる作業に入ります。この美術館の万華鏡は、高反射鏡を用いているため、表面に指紋が付かないよう、よく注意をします。子どもだけでは難しいところもあるため、保護者の皆さんも積極的に手伝っていました。



筒ができあがったら、中にいれるビーズ決めです。

机に出されたビーズの数々に、子どもたちも夢中！筒の先に取り付けたプラスチックケースに、ビーズを選んで入れていきます。「すり切りいっぱいまで入れてね！」という指導のもと、大粒のものや砂粒大のものまで、試しに覗いたりしながら、作り上げます。中には、「紫は要らない！」と、完成直前にプラスチックケースの中に混ざっている小さな紫色のビーズだけを取り出そうとする子も！

最後に、万華鏡の外側をマスキングテープやペンでデコレーションして、完成です！「携帯のカメラを使うと、中の模様が綺麗に撮れるよ！」と講師の方が教えてくれました。



万華鏡が完成したら、美術館へ帰る時間です。

バスの車内では、窓から入る光に万華鏡をかざして、見ながら帰る子どもたちも。自分の万華鏡のできあがりには大満足だったみたいです。

今回のバスツアーは、一宮市から離れ、「遠方だけど楽しめる美術館」を案内する目的で企画しました。今後もイベントを通して、魅力的な美術館やものづくり体験をみなさんにご紹介していきたいと思います。（学芸員 大村）

